



## 戦国の四公子③ (信陵君の誠実)

3月③のごあいさつ

山内公認会計士事務所

2023年3月21日(火)

魏の信陵君は、四人の公子の中では最も能動的で、政治家としても大物の実力と風格を備えていた。

信陵君は慈愛深く謙虚な人柄だった。誰に対しても礼儀正しく、富や地位を笠に着ることがなかった。だから、その名声を慕って有能な士が集まり、食客の数は三千人にも達した。

信陵君が聡明で、食客の数も多いとあつては秦をはじめ諸侯も、数十年魏と事をかまえようとはしなかった。

たまたま信陵君が魏王と碁を打っていた時のこと、北の国境から次々と狼煙があがり、趙軍の来襲を報じた。王は碁石を投げ捨て、直ちに重臣を招集しようとした。だが信陵君は、「なんでもありません。趙王の狩りですよ。」と、王を制止して、平然と碁を打ち続けた。

そのうち北方からの伝令が、先刻の通報は誤りで、実は趙王の狩りだったと知らせてきた。

魏王は驚いて、「一体どうして分かっていたのだ」、「私の食客の一人が趙の宮廷に情報源があり、趙王の動静は分かるのです」。

長平で趙軍 40 万人を撃破したのち、秦軍はさらに進撃を続け、都邯鄲を包囲した。趙から魏王と信陵君のもとに救援要請が何度も来た。魏王は、将軍晋鄙に 10 万の軍を授けたが、秦を恐れて国境で軍をとどめ、秦軍への攻撃は行わなかった。

平原君からは信陵君に姉との縁を口実に何度も矢の催促があった。

信陵君は心を痛め幾度も魏王に懇請したが、王は秦を恐れてかんとして聞き入れない。もはや王を翻意されることは不可能だ。

趙を助けようと、信陵君の一行が東門にさしかかった時、門番をしていた食客の一人「侯生」が「このままでは、秦軍に進撃しても何の足しにもなりません。公子がかつて王のご寵愛の如姫を助けられたことがあるでしょう。姫は公に感謝して何とかして公に恩返しがしたいと言っております。この際如姫に頼んで“兵符”を王から盗み出してもらい、兵符を握って晋鄙の軍を奪い、それを率いて秦軍に向かうべきです。これこそ“公の功業”というものです。」

信陵君は“兵符”を入手し、晋鄙の軍を掌握し、秦軍攻撃の命を下した。

秦軍は魏軍の動きを察知すると、包囲を解して撤退し、かくて趙の邯鄲を守った。